

作成日 2010年03月31日  
改訂日 2018年07月01日

## 安全データシート (SDS)

### 1. 製品及び会社情報

製品名 ミリオネートMS-60

会社名 保土谷建材株式会社

住所 〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目4番1号

担当部門 技術部

電話番号 03-5299-8170 FAX番号 03-5299-8275

メールアドレス hcp@hodogaya.co.jp

緊急連絡先 03-5299-8170 弊社

奨励用途及び使用上の制限 工業用 (建築用塗材 等)

整理番号 H-6-3

### 2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性：

有害性： 蒸気は目、鼻、咽喉を刺激する。吸引すると麻酔作用がある。

物理的及び化学的危険性：

引火しやすい液体。 消防法危険物第4類第1石油類。

特定の危険有害性： 溶剤の蒸気と空気が混合して爆発性混合物を形成しやすい。

分類の名称 (分類基準は日本方式)： 引火性液体。

#### GHS分類

引火性液体	区分2
急性毒性 (経口)	区分外
急性毒性 (経皮)	区分外
急性毒性 (吸入)	区分3
皮膚腐食性/刺激性	区分外
眼損傷/眼刺激性	区分2B
標的臓器/全身毒性-単回暴露	
気道刺激性・麻酔作用	区分3
水生環境急性有害性	区分外
水生環境慢性有害性	区分外

\* 記載がないものは分類対象外または分類できない

ラベル要素：



注意喚起語： 危険

危険有害性情報

- ・ 引火性の高い液体及び蒸気
- ・ 吸入すると有毒
- ・ 眼刺激
- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 眠気やめまいのおそれ

注意書き

[予防策]

- ・ 熱、火花、裸火、高温の着火元になるものから遠ざけること
- ・ 保護手袋及び保護眼鏡・保護面を着用すること
- ・ 防爆型の機器を使用すること
- ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること
- ・ 火花を発生させない工具を使用すること
- ・ 屋外または換気のよい場所でのみ使用すること
- ・ 取扱い後、よく手を洗うこと
- ・ ミスト・蒸気等の吸入を避けること

[対応]

- ・ 火災の場合には消火に適切な手段を使用すること
- ・ 皮膚にかかった場合、直ちに汚染された衣服を脱ぎ、流水で洗うこと
- ・ 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
- ・ 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること
- ・ 気分が悪いときは、直ちに医師に連絡すること
- ・ 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること

[保管]

- ・ 施錠して保管すること
- ・ 容器は密閉して換気のよい場所で保管すること

[廃棄]

- ・ 内容物・容器は自治体の規則に従って廃棄すること

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 製品は混合物

化学名 NCO 基末端ウレタンプレポリマー

一般名 ウレタン樹脂プライマー

成分	含有量 %	化学式	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
ウレタンプレポリマー	30~40		(7)-820
酢酸エチル	50~60	CH <sub>3</sub> COOC <sub>2</sub> H <sub>5</sub>	(2)-726
酢酸ノルマルブチル	0~10	CH <sub>3</sub> COOC <sub>4</sub> H <sub>9</sub>	(2)-731
イソホジオリシアネート	(不純物として含有)	C <sub>12</sub> H <sub>18</sub> N <sub>2</sub> O <sub>2</sub>	(3)-2492

成分	CAS No.	化学物質管理促進法 第1種指定化学物質	労働安全衛生法 第57条の2 第1項 通知対象物
ウレタンプレポリマー		非該当	非該当

酢酸エチル	141-78-6	非該当	該当
酢酸ノルマルブチル	123-86-4	非該当	該当
イソホジ イソシアネート	4098-71-9	第1種指定化学物質	該当

#### 4. 応急措置

吸入した場合：

- ・被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動し保温、安静に努め、速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：

- ・汚れた衣服を脱ぎ、多量の水で洗い流す。皮膚に炎症を生じた時は、医師の診断を受ける。

目に入った場合：

- ・コンタクトレンズを使用している場合は固着していない限り、取り除いて直ちに清浄な水で15分間以上洗眼し、眼科医の診断を受ける。

飲み込んだ場合：

- ・水で口の中を洗浄にし、直ちに医師の診断を受ける。

#### 5. 火災時の措置

消火剤： 粉末消火器、炭酸ガス消火器、泡消火器、乾燥砂が有効である。

使ってはならない消火剤：水

特定の消火方法： 可燃性のものを周囲から、速やかに取り除くこと。

消火を行う者の保護： 適切な保護具(耐熱着衣等)を使用し風上から消火する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：作業の際には適切な保護具（ゴム又はプラスチック手袋、呼吸器用保護具、エプロン、ゴーグル等）を着用する。

環境に対する注意事項：河川等へ排出され、環境へ影響を起すことがないように注意する。

除去方法： 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量流出の際には、盛り土で囲って流出を防止する。流出物はスコップなどで密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。

二次災害の防止策： 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理をすること。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

技術的対策 換気の良い場所で取り扱う。容器はその都度密栓する。

注意事項 周囲での火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）のものとする。

安全取扱い注意事項

皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らないように適切な保護具を着用する。使用済みウエス、塗料かす等は廃棄するまで水につけておく。

保管：

適切な保管条件

- ・子供の手の届かない所に保管する。

- ・火気、熱源から遠ざけて保管。風通しの良いところに保管する。
  - ・雨水や直射日光を避けるために防水シートで覆うこと。
- 安全な容器包装材料 石油缶など。移し替えてはならない。

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：火気厳禁の処置をとる。屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置の設置を行う。取り扱い場所の近くに手洗い・洗眼装置を設け、その位置を表示する。

許容濃度：

成分名	管理濃度	日本産業衛生学会勧告値	ACGIH
酢酸エチル	200ppm	200ppm/2005年	400ppm/2005年
酢酸ノルマルブチル	150ppm	100ppm/2005年	150ppm/2005年

保護具

呼吸器用の保護具	必要に応じて有機ガス用防毒マスクを使用。
手の保護具	耐油性（不浸透性ゴム）手袋。
目の保護具	側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡。
皮膚及び身体の保護具	長袖保護衣、静電気防止作業衣、安全靴。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状：液体

色：淡黄色透明

臭い：エステル臭

pH：データなし

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲：データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲：酢酸エチル・酢酸ノルマルブチル 77.1～126℃

引火点：-2℃

爆発特性：1.2～11.5vol%

蒸気圧：酢酸エチル・酢酸ノルマルブチル 10kPa(20℃)・1.2kPa(20℃)

蒸気密度（空気=1）：酢酸エチル 3.0 酢酸ノルマルブチル 4.0

比重：0.96/25℃

溶解性

水に対する溶解性 8.1wt%水(20℃) 酢酸エチル 0.7g/100mL水(20℃) 酢酸ノルマルブチル

オクタノール/水分配係数：酢酸エチル log pow=0.73 酢酸ノルマルブチル log pow=1.82

自然発火温度：酢酸ノルマルブチル 420℃

## 10. 安定性及び反応性

安定性：窒素ガス等不活性ガスで置換された密栓容器内においては常温で比較的安定である。

反応性：通常の使用では危険な反応はない。

避けるべき材料：酸化剤、有機過酸化物、水分、アルコール、アミン類。

危険有害な分解生成物：

燃焼あるいは高温により一酸化炭素、窒素酸化物などの有害ガスを発生する。

## 11. 有害性情報

引火性液体	: 引火点 -2℃ 酢酸エチル・酢酸ノルマルブチル: 77.1~127℃ 上記より混合物として区分2に分類される。
急性毒性(経口)	: 酢酸エチル LD50(経口)ラット 4940mg/kg 酢酸ノルマルブチル LD50(経口)ラット 14130mg/kg 上記より混合物として区分外に分類される。
急性毒性(経皮)	: 酢酸エチル LD50(経皮)ラット 18000mg/kg 以上 酢酸ノルマルブチル LD50(経皮)ラット 17600mg/kg 上記より混合物として区分外に分類される。
急性毒性(吸入)	: 酢酸エチル LC50(吸入)ラット 16000ppm 酢酸ノルマルブチル LC50(吸入)ラット 2000ppm 上記より混合物として区分3に分類される。
皮膚腐食性/刺激性	: 酢酸エチル、酢酸ノルマルブチル; 区分外 上記より混合物として区分外に分類される。
眼損傷/眼刺激性	: 酢酸エチル、酢酸ノルマルブチル; 区分2B 上記より混合物として区分2Bに分類される。
皮膚感作性	: データ不足のため分類できない。
呼吸器感作性	: データ不足のため分類できない。
変異原性	: データ不足のため分類できない。
発がん性	: データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: データ不足のため分類できない。
標的臓器/全身毒性-単回暴露:	酢酸エチル: 致死濃度に近い暴露で麻酔及び気道刺激が報告 気道刺激、麻酔 区分3 酢酸ノルマルブチル: 吸入曝露試験においてうっ血、肺胞の出血、気管支粘膜の脱落などが観察 されたため区分2(呼吸器)、動物実験により区分2(中枢神経系) 上記より混合物として区分3(麻酔作用、気道刺激性)に分類される。
特定標的臓器/全身毒性-反復暴露:	データ不足のため分類できない。
吸引力呼吸器有害性	: データ不足のため分類できない。

## 1.2. 環境影響情報

生態毒性:

水生生物有害性: 酢酸エチル EC50(96hrs) 魚類フットヘッドミノー 230mg/L

酢酸ノルマルブチル LC50(96hrs) 魚類フットヘッドミノー 18mg/L、

上記より混合物として水性環境急性有害性は区分外に分類される。

また、生分解性、蓄積性のデータより、水性環境慢性有害性は区分外に分類される。

残留性/分解性: 酢酸エチル 通商産業省の既存化学物質点検等において生分解性の良好なことが認められている。

酢酸ノルマルブチル 急速分解性がある (BODによる分解度=98%)

生体蓄積性: 酢酸ブチル 生物蓄積性が低いと推定される。

移動性: データなし。

## 1.3. 廃棄上の注意

廃樹脂、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理を委託する。  
容器、機器装置等を洗浄した溶剤等は、地面や排水溝へ流さないこと。

焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法律に従って処理を行うか、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理を委託すること。

#### 14. 輸送上の注意

国連分類： クラス3 国連番号： 1993

国内規制： 陸上輸送： 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送： 船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送： 航空法に定めるところに従う。

輸送の特定の安全対策及び条件：

取り扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従う。

#### 15. 適用法令

労働安全衛生法：

通知対象物質： 酢酸エチル、酢酸ノルマルブチル

有機則 第2種有機溶剤 酢酸エチル、酢酸ノルマルブチル

毒物及び劇物取締法： 非該当（この製品に含有しているイソホロンジイソシアネート（IPDI）は、製造過程等に由来する不純物のため、この製品は毒物に該当しません。）

消防法： 危険物第4類 第1石油類（非水溶性）危険等級II

危険物船舶運送及び貯蔵規則 引火性液体類(1993)

#### 16. その他の情報

主な引用文献

独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）ホームページ GHS分類結果データベース

原料メーカーのSDS

日本塗料工業会編集 「原材料物質データベース」

国際化学物質安全カード（ICSC）

製品安全データシートの作成指針（改訂版）日本規格協会（2001年10月）

日本工業規格 JIS Z 7253：2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法

危険物船舶運送及び貯蔵規則 海文堂

記載内容は、現時点で当社が入手した資料・データ等に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。

注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。また、本製品を本来の用途以外に使用しないで下さい。